

大内比呂子(おおうち ひろこ)
平成 18 年 1 次隊 家政 ソロモン

プロフィール

現職教員参加制度で、平成 18 年度 1 次隊として青年海外協力隊に参加する。現在は高校の家庭科教員として在職中。

ソロモンの気候や文化

年中高温多湿で、洗濯物はカビだらけになります。環太平洋火山帯に属し地震も多い国です。歴史的には第 2 次世界大戦の激戦地だったことでも有名です。

言語はピジン語。その中でも地域によりさらに方言があります。”ワントク”すなわちワン・トーク(ひとつの言葉話す人々)という文化があり、同じ方言を話す人どうしの絆が非常に強く、ワントクならば助け合うのが当然で無償で協力しなければなりません。大変そうでもあるけれど、人間のあたたかさを感じる文化です。

活動や生活について

現地の高校や村で裁縫や料理の指導員として活動していました。自分の足で歩いて多くの村人と話すこと、現場をみることで現地の人が必要としているものは何かを考え、それに応えられる活動ができるように、と心がけていました。時には荒地を開拓して畑や花壇を作ったり、養鶏をしたり、環境問題啓発活動をしたり、手探りの中での活動でしたができることは何でも挑戦しました。

ソロモンの人々はあくせく働いたりせず、天候も含め自然の動きに身をまかせ、できることをできる範囲で行い、日々を楽しく暮らしています。いろいろとソロモンのためにやりたい！と意気込んでいる私と現地の人々の生活とは全く、ペースが異なりました。

初めのころは思うように物事が進まず焦ったり、怒ったり、ストレスのたまることもありましたが、「私は今はソロモンにいるんだから、ここでの生活ペースにあわせることが大切ではないか、現地の人にとっては私が異文化なんだから私が合わせていけない」と思い直し、ソロモンタイムに自分も歩み寄るようになりました。そんな中で見えてきたものは現地の人々のあたたかさ、今を生きることの大切さ、でした。

生活面について述べると、まさに自給自足の世界でした。水道がないので雨水をため、洗濯やシャワー、皿洗いは川ですまし、トイレがないので森に穴を掘り、ガスがないので薪を集め、電気がないので蠟燭をともし、テレビも電話もないので余暇には読書をし、車がないので歩き、ないものは料理も服も手作りする、といった生活でした。買い物に行けば何でも手に入る日本の生活とは大違い。蚊も多いし、大雨になれば泥道を裸足で歩かなければならず、衛生面でも環境はよくありません。不便で体力的に過酷な生活でしたが、それでも行ってよかった、最高の経験ができたと思えるのは物質的なものでは得られることのない幸せを感じることができたからだと思います。

私が活動したことで喜ばれたことも多くありましたが、私が彼らから学んだことはそれ以上です。人を受け入れる大きな心、家族へのおもいやり、自然に身をまかせる柔軟さ…今も写真をみるたびに「ありがとう」と感謝の気持ちがいってきます。

またいつか彼らに再会したいと思っています。



卒業式の時に子供たちととった写真。子供たちが着ている衣装は学校の先生たちと協力して卒業生のために作り上げた衣装。



村の女性たちに刺繍・パッチワーク講習会を行っているところ。場所は学校の家庭科室。家庭科室は私と学校で協力して作り上げた部屋。